

障害のある子どもと関わることで、 教師としての資質・能力の向上を図る

団体名 ● coLorFul / 代表者名 ● 岡田彩香(人間科学部こども学科 3年)

指導教職員：河野俊寛

協力外部団体：金沢手をつなぐ親の会、金大附属特別支援学校、いしかわ特別支援学校 PTA、福祉水泳きらり

はじめに

coLorFul は障害のある子たちと関わる機会をつくり、障害に関する知識や理解を深めることを最大の目的として活動しています。そうした機会があることで、将来の自分のキャリア形成を見通し、想定外の子どもの言動にも臨機応変な対応ができる力をつけることに繋げることができます。

メンバーは、人間科学部や経済学部さらに短期大学部の1～4年生の30名で構成されており、学年の壁を超えて、同じ目的に向かって、切磋琢磨しています。

活動内容

2019年度は、手をつなぐ親の会が連携している放課後児童クラブ：日常生活訓練施設すずかけの家でのイベントづくりを中心に活動してきました。そのほか、手をつなぐ親の会の支援員の講演への参加、地域ボランティア活動への参加、研修として学校見学を実施しています。

イベントまでの準備期間には、学生同士だけではなく、施設の方との打ち合わせと放課後ボランティアを行いました。園に通う子どもたちの実態や障害の程度を理解し、それを踏まえて企画を構想しました。また、いくつかの地域のイベントにも学生ボランティアに参加し、子どもたちと関わる機会を多く設けることができました。

活動の成果、結果の考察

私たちは主に知的障害児向けのサマースクールへの参加や放課後児童クラブでのイベント企画・運営を行ってきました。

放課後児童クラブのイベントでは、二日間に分かれて担当する日のメインの活動内容を企画・運営さ

せていただきました。企画する際には、前回うまくいかなかった点を踏まえ、事前に子どもたちの障害の程度や性格を理解するために放課後ボランティアを行いました。本番二日間とも子どもたちは楽しそうに活動しており、事前準備を入念に行っていたため、スムーズに活動を終わることが出来ました。活動後に実施した施設の方との振り返りではイベントについてのご指摘や、特別な支援を必要とする子どもとかかわっていく上での大切なことも多く学ぶことができました。

今後の課題、展望

今年度は創設したばかりにもかかわらず様々な活動に参加することができました。しかし、活動が不定期となったり、時間割の都合が合わなかったりしたため参加する学生に偏りがありました。

来年度は今年の反省を生かして、放課後児童クラブでの活動に加えて新たな活動行っていくことで、メンバー全員が子どもたちとかかわり、特別支援教育について理解する時間を増やしていきたいです。そして、今後のそれぞれの活動につなげていきたいと考えています。



図1 学生集合写真